

ワークショップ

高等学校の「哲学・倫理」教育で 何をどのように教えるか

大学での哲学教育・教養教育との
連携へ向けて

哲学研究と高校「倫理」教育の 連携へ向けて

高校「倫理」の振興と
教養「哲学」再生のために

国士舘大学 木阪貴行

序 <哲学者>と教師の間

職業哲学者の社会的存在意義を再考

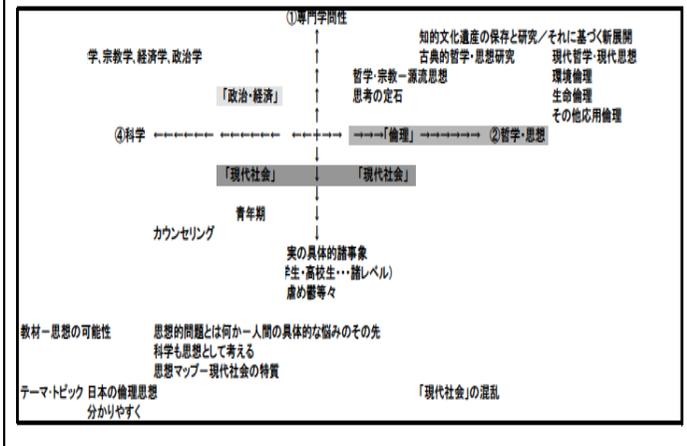
- 現実の教育制度の中で、
哲学の教員であること
- 大学教員であることと哲学研究者であること
- 専門分野の研究と哲学者であること

「良識ある公民として必要な能力と態度を育てる」

1. なぜ「哲学」ではなくて「倫理」

- A. 「道徳」との連関
- B. 諸思想の中の「哲学」
- C. 「哲学」と文化相対性
- D. 市民 / 公民 / 国民 / 日本人
- E. 哲学の普遍性へ(?)

2. 「倫理」全体の見取り図



3. 教育現場の問題

☆高校現場の問題

受験体制に伴う問題ーそもそも授業が行われない
 専門教員の不足、あるいは欠如
 教材の定番がない
 時間数、単位の問題等々

☆大学現場の問題

「教養部」の解体
 学生の学力低下と導入教育問題
 キャリア教育と教養教育との関係
 総合教育科目「哲学」は
 時代の／本質的な 課題に込んでいるか？

4. 高大連携へ

- ・大学教員として「倫理」をサポート
- ・教養教育の在り方を考え直す
- 「倫理」を支えるべき関連分野の連携
- ・高校教員に対して実質的な教材を提供する
- ・「倫理」の広大な範囲に実質的な教材を提供するために大学教員の連携を形成する



大学の在り方そのものの活性化

5. 連携 → 高校教員から学ぶ

- ・連携のためには学ぶ姿勢が必要
- ・優れた実践事例をリサーチする必要
Ex. 福井県「授業名人」
- ・様々なメディアから収集される教材
- ・高校教員を媒介することによって、世代間の共通感覚を醸成する

6. 現状認識 → 実務

＜議論＞はそろそろ終わりにして・・・？

とにかく、まず現行「倫理」を再興する
具体的連携と教材の開発、蓄積が必要

抜本的な変革もその上でのことになろう
そもそも「倫理」が駆逐されていくかもしれない
現行の科目をまず充実させる

7. 連携 → 定番教材の構築へ

概論 と 思想史(哲学史)

自ら哲学・思想的概念を用いて考えてみる
思考の定石とその可能性とを学ぶ

両者を同時に、現実的に、「教える」ための教材
(哲学することを教えるという矛盾？
一部の熱心な教員しかできない？)

高校「倫理」発展学習と大学教養「哲学」の積極的融合
例えば、『「倫理」の教科書』(?)

8. 教材開発のための試案

必ずしも「哲学」ではなく
諸思想が具体的な問題にどう反応するか

一例として「徳副不一致に対する思想的対応」

教材開発 → 高大教員連携による
教科教育方研究 と
例えば、新人研修(大学教員も)

9. 大学教員間の連携

- 教材開発のためには、異分野の教員間で、高校「倫理」、教養「哲学」を含む市民教育全体に対する共通感覚化の醸成が必要
- 自分以外の教員が何をどのように教えているか、互いに知る必要がある。
授業内容、教材、試験問題等のポートフォリオを作る
↓
- 思想系学会(とその関連学会)合同で、同じ一般的な問題に対する、高大連携教材レベルでの定番的応答に関する共通感覚を醸成する

10. 連携→入試問題

連携教材を入試問題化

- ・入試問題を教材公表の手段として捉える
- ・センター試験の背後 → 思考の定石・定番
ただし、専門研究者が入試問題の背後を考える
- ・各大学、あるいは、複数大学の哲学系学科で連携して、教材開発の成果を論述問題を含む入試問題を作成する